

Mémoires 2022

第72回 安田記念(GI)



成長を遂げた才媛が初タイトル ソングライン

4度目の挑戦でついにG I 初制覇、マイルの新女王が誕生した。

短距離女王グランアレグリアや前年の勝ち馬ダノンキングリーがターフを去って迎えた春のマイル王決定戦。絶対的な中心馬が不在の中、G I 馬6頭を差し置いて1番人気に推されたのは、4連勝で東京新聞杯を完勝して重賞初制覇を達成したばかりのイルーシヴァンサー。しかし、単勝オッズは4.5倍。レースは、そんな混戦模様通りの大接戦となった。

直線、逃げるホウオウアマゾンと交わって抜け出しを図るダノンザキッドとファイナルージュ。これにソングラインやサリオスが外から襲いかかる。シュネルマイスターも馬群を割るように猛追。唯一の3歳馬セリフォスもその外から懸命に脚を伸ばす。0秒5差に12頭がひしめく混戦からわずかに抜け出したのは、ソングラインだった。

池添謙一騎手が「今日はこの馬の末脚を信じて4コーナー手前から動かしていきまして」と語った通り、強気のスパートが功を奏し、ライバルたちにわずかに先んじてゴールを駆け抜けた。2着はシュネルマイスター。1年前のNHKマイルCではハナ差で敗れている相手を今度はクビ差で下し、悲願のG I 初制覇を成し遂げた。

2月には初の海外遠征となったサウジアラビア遠征でG3の1351ターフスプリントを制覇。「サウジ遠征を経験して心身ともに強くなりました」と愛馬の成長を語る池添騎手にとっては、これが2年ぶりのG I 勝ちとなった。

林徹調教師は開業5年目でG I 初制覇。「レースは半分見ているようで、半分見えていないような、直視できない感じでした。まだふわふわして地に足が着かないです」と、会見では初々しい率直さで喜びの気持ちを語った。

第72回安田記念(GI)

6/5 東京競馬場 1600m(芝・左)曇・良 18頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	ソングライン	牝	4	56	池添 謙一	林 徹	1:32.3	④	10 10
2	シュネルマイスター	牡	4	58	C.ルメール	手塚 貴久	クビ	②	13 10
3	サリオス	牡	5	58	D.レーン	堀 宣行	アタマ	⑧	7 9
4	セリフォス	牡	3	54	藤岡 佑介	中内田充正	1/2	⑤	10 13
5	ファイナルージュ	牝	4	56	武 豊	木村 哲也	クビ	③	5 3
6	ダノンザキッド	牡	4	58	川田 将雅	安田 隆行	ハナ	⑦	2 2
7	エアロノア	牡	5	58	幸 英明	笹田 和秀	1/2	16	17 16
8	イルーシヴァンサー	牡	4	58	田辺 裕信	久保田貴士	ハナ	①	17 16
9	ナランフレグ	牡	6	58	丸田 恭介	宗像 義忠	3/4	12	15 13
10	ロータスランド	牝	5	56	M.デムーロ	辻野 泰之	クビ	⑩	9 6
11	レシステンシア	牝	5	56	横山 武史	松下 武士	クビ	⑨	5 6
12	ホウオウアマゾン	牡	4	58	坂井 瑠星	矢作 芳人	1/2	15	1 1
13	ソウルラッシュ	牡	4	58	浜中 俊	池江 泰寿	クビ	⑥	13 13
14	ダイアトニック	牡	7	58	岩田 康誠	安田 隆行	1/2	17	3 3
15	ヴァンドギャルド	牡	6	58	岩田 望来	藤原 英昭	1 1/2	13	7 6
16	カラテ	牡	6	58	菅原 明良	辻野 泰之	クビ	14	10 10
17	カフェファラオ	牡	5	58	福永 祐一	堀 宣行	アタマ	10	3 3
18	カテドラル	牡	6	58	戸崎 圭太	池添 学	4	18	15 16

単勝 ⑬820円 複勝 ⑬260円 ⑨210円 ⑰520円 枠連(5-7) 720円
馬連 ⑨-⑬1,740円 馬単 ⑬-⑨3,740円 ワイド ⑨-⑬830円 ⑬-⑰2,770円 ⑨-⑰1,470円
3連複 ⑨-⑬-⑰11,810円 3連単 ⑬-⑨-⑰64,140円

ハロンタイム 12.2-11.0-11.5-12.0-12.0-11.2-11.0-11.4
通過タイム 600m ⑬34.7-800m ⑬46.7-1000m ⑬58.7-1200m ⑬1:09.9-1400m ⑬1:20.9



優勝馬:ソングライン

2018.3.4生 牝 青鹿毛
父:キズナ
母:ルミナスパレード
母の父:シンボリクリスエス
生産:安平・ノーザンファーム
馬主:(有)サンデーレーシング